学校経営の概要

山梨市立日下部小学校

Ⅰ　学校教育目標

**「自ら学び　心豊かで　たくましく生きる児童の育成」**

　　　○確かな学力の育成

　　　○豊かな心の育成

　　　○健やかな体の育成

　　　○望ましい集団づくり

 　＜めざす子ども像＞

|  |
| --- |
| ○夢と希望に向かって自ら学び，考え，行動する子ども○自分や友達を大切にする子ども○粘り強く最後まであきらめない子ども○進んで体を鍛える子ども○礼儀正しい子ども |

　＜めざす学校像＞

|  |
| --- |
| ○子どもたちが明日も来たくなる学校（一人ひとりの子どもを大切にする学校）○教職員が働きがいのある学校（明るい職場，協働体制で取り組む学校）○保護者や地域に信頼される学校（保護者や地域社会を大切にする学校） |

Ⅱ　学校経営の基本方針

（１）適切な教育課程を編成し，ＰＤＣＡサイクルによる評価と改善に努める。

（２）児童の学習意欲を高め，学習の習慣化を図り，確かな学力の向上をめざす。

（３）生命尊重の精神を基本に，共感的人間関係づくりに努める。

（４）児童一人ひとりを大切にし，豊かな人間性を育てる。

（５）新しい生活様式に基づいた，持続可能な学校教育の創造に努める。

（６）教職員相互の「信頼と和」を築き，互いが協力し支え合う職場づくりに努める。

Ⅲ　学校経営の重点

（１）安全教育の充実と危機管理体制の整備・充実

①「生活安全」「交通安全」「災害安全」の領域について，安全教育，安全管理の面から，相互に関連付けて組織的に行う。

②これまでの新型コロナウイルス感染創感染防止の取組を活かし，児童の健やかな学び・豊かな学びを保障する。

③情報の管理（特に個人情報）については，危機管理マニュアル・情報セキュリティーポリシーに基づき，全職員の共有認識を深化させ，組織的に行う。

④学校安全委員会を機能させ，各分掌・担当間の共通認識・連携を図る。

⑤危機管理マニュアル・感染症防止対策マニュアルは，状況に合わせ，（訓練）・評価・改善を行い，保護者・関係機関・関係団体への周知を図る。

（２）新学習指導要領に基づく，教育課程の編成，実践，評価，改善を適切に行い，「確かな学力」を育む教育活動の推進に努める。

①「主体的・対話的で深い学び」の充実に向け，ICTを活用した授業改善に努める。

②山梨市の特色ある教育の実現に向け，創造的な教育活動を進める。（山梨市のECHOSE学習）

　（スタート・カリキュラム　特別支援教育（通級指導教室）の充実）

③各教科における目的に応じたICTの活用と，プログラミング教育，英語（外国語）教育，道徳教育，言語活動の育成を教育課程に位置付け，教科横断的な視点から，「確かな学力」の育成を図る。

④家庭との連携を図り，家庭学習の充実に努める。

⑤学級力向上プロジェクトによる望ましい学級集団・学習集団の形成を図る。

⑥特別支援教育，通級指導の充実に努め，組織的に連携した教育を進める。

⑦学校図書室を計画的に利用し，読書活動の充実を図る。

（３）豊かな心の育成をめざし，いじめを許さない集団づくりと安心できる環境づくりに対応できる切れ目のない組織的な支援の充実に努める。

①「いじめ防止基本方針」に基づいた，適切な児童理解を行うとともに，組織的な早期対応や早期解決に努める。

②児童理解のための教育相談活動を充実させ，集団での居場所が認識きるような固有の良さを褒め，認め，自立を支えるように努める。

③児童の個性・特性を生かすことのできる多様な学びの場（通常学級・通級指導・特別支援学級）における，支援・指導の充実に努める。

④ＳＯＳの出し方に関する教育を推進し，関係機関と連携した組織的な支援の充実を図る。

⑤ボランティア活動などの体験活動を通して，思いやりの心や，公徳心を育て道徳的実践力や基本的生活習慣を自覚・実行させるよう努める。

⑥児童会活動，清掃活動，当番活動等の充実を図り，自主性，社会性，協調性を育てる。

⑦明るくさわやかなあいさつ，場に応じた言葉づかい等の美しい言語表現の育成に努める。

（４）健康安全教育の充実と体力向上に努める。

①発達段階を考慮しながら，学校教育全体を通じて健康教育の充実に努める。

②生活の安全，交通安全，防災等，安全教育の充実に努める。

③家庭と連携し，健康三原則（睡眠・食事・運動）の推進を図る。

④休み時間や放課後等を利用し，運動や遊びの日常化を図る。（チャレンジ・ふれあいタイム）

（５）地域・社会に開かれた学校づくりをめざし，学校運営協議会により，学校教育を通じ，よりよい社会づくりをめざす。

①学校運営協議会を開催し，社会に開かれた教育課程のもと，地域・保護者の学校教育への参画を進め，学校教育を通じてよりよい社会づくりをめざす。

②地域の伝統文化，自然環境，郷土資料などを生かし，地域に根ざした教育を推進し，地域と連携して福祉の心の醸成を図る。（昔遊び，グランドゴルフ等）

③地域の人材活用を積極的に行い，学校と地域との結びつきを深める。

④安全・安心な学校・地域をめざし，地域と連携した安全教育（実践的な防災訓練・防犯教室等）の充実を図る。

⑤学校評価の項目を精選し，目標，実効，評価，改善のＰＤＣＡサイクルに基づく評価と改善を行う。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 年間計画の概要 |
|  | １学期 | ２学期 | ３学期 | 年間を通して |
| 主な行事予定 | ４月入学式新任式・始業式１年生を迎える会ＰＴＡ新旧役員会授業参観・学年部会・ＰＴＡ総会５月校外学習（１～４年）交通安全教室（３年・５年）陸上記録会（６年）職員心肺蘇生法講習会６月自然教室（5年）修学旅行（6年）７月防犯訓練水泳記録会（6年）１学期終業式 | ８月２学期始業式９月避難訓練（地震）10月就学時知能検査秋季大運動会校外学習（2，4年）11月校外学習（1，3，5年）校内マラソン大会避難訓練12月避難訓練（火災）個別懇談２学期終業式 | 1月スキー教室（6年）３学期始業式新入学児保護者説明会児童会選挙ＰＴＡ役員選考会２月授業参観・学年部会3月６年生を送る会査定会卒業証書授与式修了式 | きずなの日（月２回）学校開放日（月１回程度）職員会議（月１回程度）校内研（年20回） |

校内研修計画

山梨市立日下部小学校

１．日下部小学校グランドデザインより

○学校教育目標

「自ら学び 心豊かで たくましく生きる児童の育成」

 　　・確かな学力の育成 ・豊かな心の育成

 　　・健やかな体の育成 ・地域・社会に開かれた学校づくり

○目指す子ども像

 　　・夢と希望に向かって自ら学び，考え，行動する子ども

 　　・自分や友達を大切にする子ども ・粘り強く最後まであきらめない子ども

 　　・進んで体を鍛える子ども ・礼儀正しい子ども

○重点目標（一部抜粋）

≪確かな学力≫

 　　・ICTの活用を通して「主体的・対話的で深い学び」の追究と授業改善

 　　・指導と評価の一体化と充実 　　・家庭学習の充実

≪言語活動の充実≫

・全教科を通じた言語活動の充実 ・表現活動の充実

２．研究主題

「主体的・対話的で深い学び」に向けた学びの創造　　～ＩＣＴ機器の活用を通して～

３．主題設定の理由

　　　グランドデザインに則り，学校教育目標や目指す子ども像，重点目標を達成していくことが，私たち教師が同じ方向を向いて取り組んでいくべき大きな目標である。校内研究もその大きな目標を達成するための一つの要素として，機能していくことが求められている。

平成３０年度～令和２年度の３年間に渡り，山梨県教育委員会より「主体的・対話的で深い学び推進事業 推進校」の指定を受け，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究を進めてきた。指定１年目は，研究教科を算数科に絞って研究を進め，「主体的・対話的で深い学び」について共通理解を図った。２年目は，課題提示の工夫と対話的な活動を促す発問の工夫に焦点を当て，授業づくりを行いながら研究を進めた。「学級力の向上」と「主体的・対話的で深い学び」は互いに関係しており，共に推し進める必要があることが確認された。３年目は，教科を算数から他教科にも広げ，その中で，過去２年間の研究が他教科への適用について，指導と評価の一体化をより意識したより良い評価の方法や場面について，授業実践を行いながら検証し，「主体的・対話的で深い学び」の更なる追究・充実を図った。研究を進める中で，「主体的で対話的で深い学び」の実現に向けては，

①子どもたちが，学習課題に興味関心をもって，生活経験と結び付けたり，到達目標を見通したり，活動を振り返って次につなげたりすることができるようにする。

②子どもたち同士で協働したり，授業者や地域の人と対話したり，自己内対話をじっくりしたりする中で，先哲（既習事項を含む）を手がかりにしながら，自分の考えを深めることができるようにする。

③子どもたちが各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，既習事項や新たに得た知識を関連づけたり，問題解決のために必要な情報を選んだりし，解決策を見出すことや進んで疑問をもって解決することができるようにする。

という３つの視点が，大切であるということが確認されてきた。そして授業実践を重ねることの大切さを改めて確認できたりすることができた。

また，昨年度までの２年間にかけて，ＩＣＴ機器の活用という視点で研究を行い，教室を分割したリモート授業の実施や学級力向上の取り組みへの活用など，活用方法の創造を進めている。今年度は，市内で統一して導入されている学びポケットとGoogle Workspace for Educationの授業における使い分けや家庭学習や校務における積極的な活用にも取り組んでいく。

以上のことにより，本年度の研究主題を，「『主体的・対話的で深い学び』に向けた学びの創

造」，副主題を，「ＩＣＴ機器の活用を通して」と定め，研究に臨んでいきたい。

４．具体的な取組内容

①主体的・対話的で深い学びの実現に向け，ＩＣＴ機器を使用した授業実践。

　　・授業研究（指導案検討・授業参観・研究会）

　　・リーディングDXスクール事業におけるICT機器の積極的な活用

②主体的・対話的で深い学びを実現するための，学級経営について

　　・学級力向上プロジェクト　　　　　・家庭学習

　③一人一台端末の活用に向けてのスキルアップ研修会の実施

　　・学びポケットや学びボックスや、Google Workspace for Education、MEXCBT等の活用方法

　　・校内での授業観察（種々のアプリケーションの使い方の提案）

５．年間研修計画

